

浄土教ゆかりの地参拝の旅 6日間

インドで成立した浄土教はやがて中国に伝わり、三高僧である曇鸞大師、道綽禪師、善導大師の多大な功績によって称名念仏が確立されました。こちらのコースでは山西省、陝西省・西安の浄土教や三高僧ゆかりの地を巡拝します。

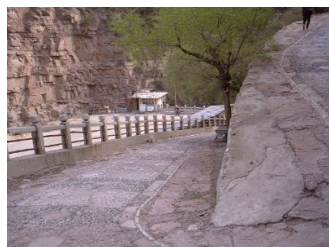
1	各地空港 ⇒ 経由地 ⇒ 太原 空路、経由地にて乗り継ぎ、太原へ 【太原泊】
2	太原 ⇒ 玄中寺 ⇒ 平遥 午前、太原市内の古刹参拝(崇善寺、双塔寺)と山西博物館見学 午後、曇鸞大師、道綽禪師、善導大師ゆかりの古刹・玄中寺参拝 【平遥泊】
3	平遥 ⇒ 綿山 午前、平遥市内見学(平遥古城、鎮国寺、相林寺) 綿山へ 綿山市内の寺院参拝(正果寺、鸞公岩) 【綿山泊】
4	綿山 ⇒ 太原 ⇒ 西安 太原へ 途中、曇鸞大師終焉の寺とされる梵安寺(遙山寺)参拝 空路、西安へ 【西安泊】
5	西安 終日、西安市内及び郊外の寺院を参拝(香積寺、大雁塔、 上悟真寺、下悟真寺、草堂寺) 【西安泊】
6	西安 ⇒ 各地空港 空路、帰国の途へ(直行便または経由便) 入国手続き、税関の後、解散

玄中寺

玄中寺は、中国浄土教の祖師・曇鸞大師が山西省交城県石壁山の南に建立しました。北魏の末、曇鸞大師は并州の大巖寺を出て、この玄中寺に移り、浄業を修め、梁の武帝や東魏の孝静帝の帰依を受けました。

隋の大業年間に、道綽禪師が玄中寺の寺内に建つ曇鸞大師の碑文を読んで浄土教に帰依し、当地に浄土教九品道場を営みました。さらに善導大師が、この玄中寺に道綽禪師を訪ねて、その門に投じ、以後十年間教化を受けられました。このことから玄中寺は中国浄土教の祖庭であると言われております。

境内には随の時代の念仏者・道綽禪師ゆかりの二碑や多数の仏殿、仏閣の他北魏、随、唐、宋時代の石仏、石碑が多数遺っています。



太原・平遥・綿山

太原は中国北原・太原盆地の北、河の東岸にある山西省の省都です。晋がこの地に都を置いて以来3,000年の間、北方に対する軍事の要衝として幾多の荒廃と再建を繰り返してきました。

市内には太原市仏教会が置かれる崇善寺をはじめ、双塔寺などの古刹があり、郊外には中国浄土教の祖庭・玄中寺や緑美しい晋祠、世界遺産に登録されている平遥古城などがあります。

曇鸞大師終焉の地とされている場所は諸説あり、梵安寺(遙山寺)は有力な説とされている2ヶ所の内の1つで、こちらの寺院には塔と僧坊跡が遺っています。

綿山は曇鸞大師が修行し、ご説法された地と言われております。曇鸞大師を記念して建てられた塔のある正果寺や修行洞のある鸞公岩などがあり、風景区として観光地にもなっております。



双塔寺(太原)



平遥古城(平遥)



正果寺(綿山)



梵安寺

西安の浄土教ゆかりの寺院

西安は古くは長安と呼ばれた中国の古都で仏教文化も古くから伝わる街です。郊外には曇鸞大師の後を継いだ道綽禪師の弟子である善導大師が念仏修行に励んだ終南山悟真寺があります。現在では上悟真寺、下悟真寺、水陸庵と別れています。また、善導大師を供養するために、その弟子たちが紀元706年に建立した13層の霊塔が建てられている香積寺や玄奘三蔵ゆかりの大雁塔などがあります。



香積寺



西の城壁



大雁塔